

第4回 8月28日(月)

今回のテーマ：「子どもの変化 目の付け所 ～行動記録で見る目を変える～

本日の講座のポイント…

- ① 子どもの状態に応じた柔軟な視点を身に付ける
- ② アセスメント力の向上
- ③ チームで対応の共通認識の作り方を知る

1 記録の壁

- 多くの情報を盛り込みすぎてしまう
 - 時間がない
 - その場に立ち会えない 等
- 記録をとることのメリット

- ・誤解が解け、努力が報われていることが分かる
- ・指導の改善のポイントが分かる
- ・先生方ができることが増える → 指導力 Up



2 機能的な行動記録のプロセス（簡易版）

- ① 行動を定義する
- ② アセスメント…どんな時に、何をして、どうなるか
- ③ ベースラインを作る…時間、回数、量など計測可能なもの、特定の場面に絞る
- ④ 介入する…場に相応し行動を提示、定めた期間内は介入を継続
- ⑤ 介入前と比べる（再アセスメント）…前後比較 どの程度変化したか、効果があるのか

3 行動を定義する

行動とは… 動作、一人以上の観察者がいる、計れる、数えられる

4 行動記録と介入のメリット

- ① 罰的な対応を減らすことができる
- ② 子どもの「やる気」は心の問題のせいにはしないので、循環論に陥りにくい
- ③ 継続的な支援をし続けられる
- ④ （ある程度の）客観性をもって見ることができるので、共通認識が持ちやすい
→ 校内チームワークの向上
- ⑤ 共有認識をもとに介入できるので、チームとしてまとまりやすくなる。家庭と足並みを揃えた対応ができるようになる。

目の付け所として…

- ・保健室に来る回数
- ・保健室で愚痴を言う時間
- ・学校や教室に入らず「何を、どれくらいしているのか」
- ・授業に集中せず、「何をどれくらいしているのか」



5 演習Ⅰ 事例検討

- ・子ども視点を推察すること
- ・一つの行動で複数の結果があること
- ・見て観察できること

6 演習Ⅱ 網川カウンセラーによる模擬授業

◎受講者の声…

- ・ 4日間参加させていただきましたが、深まることが多く、これからの支援に生かせると感じました。
- ・ アセスメント分析が難しかったです。今までただ行動だけを記録したので、今回機能的な記録のプロセスを知ることができ、ぜひ今後やってみたいと思いました。
- ・ 行動変容につなげることができる行動記録の取り方やそこから介入方法を考えること等、新しい学びがあり、とても勉強になりました。